

実践事例から考える これからの日本語教育事業

NPO法人 多文化共生リソースセンター東海
代表理事 土井 佳彦

1

NPO法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事 土井佳彦 (どい よしひこ)

1979年、広島市生まれ。大学で日本語教育を学び、卒業後、大学や日本語学校、地域の日本語ボランティア教室で日本語教育に従事。2009年より現職

【学歴】

1998/3 広島市立舟入高校 卒業
2002/3 倉敷芸術科学大学教養学部教養学科 卒業
2011/3 南山大学大学院人間文化研究科教育ファシリテーション専攻 修了

【職歴】

2003/4-05/3 福山YMCA国際ビジネス専門学校 日本語講師
2008/4-12/3 名古屋大学「とよた日本語学習支援システム」システム・コーディネーター
2008/10-現在 多文化共生リソースセンター東海 代表(現、代表理事)
2011/4-現在 静岡文化芸術大学 非常勤講師
2012/4-現在 日本福祉大学 非常勤講師
2015/4-現在 名古屋外国語大学大学院 非常勤講師

【役員】

2009/6-現在 NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事('18~代表理事)
2012/1-現在 NPO法人日本ポルビア人協会 理事
2015/6-現在 NPO法人起業支援ネット 理事
2018/7-現在 日本語教育学会 社会啓発委員
2019/6-現在 移民政策学会 理事

【その他】

2011/4-現在 (一財)自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザー
2016/4-現在 文化庁 地域日本語教育施策推進アドバイザー
2018/4-現在 (一財)自治体国際化協会 災害時外国人支援アドバイザー



2

日本語教育事業を考える際のポイント

- for **What** なんのために(目的)
- When** いつ(時期、曜日・時間帯)
- Where** どこで(場所)
- Who** だれが(主体)
- With** だれと(連携・協働)
- What** なにを(学習内容)
- How long** どのくらい(期間、目標)
- How** どのように(手法、ツール)
- How much** いくらで
- How many** どのくらい(コスト)

Why?
なぜ



目指す状態
との
ギャップ

3

理想的な日本語学習環境とは？

①教室型・学校型



②通信型 (郵送・IT)



③派遣型 (自宅・カフェ等)



④日常生活 (隣人・職場)



4

【CASE 1】 企業への働きかけ

① 自治体から

豊田市（名古屋大学）
「とよた日本語学習支援システム」
<http://www.toyota-j.com/>



② 国際交流協会から

（公財）静岡県国際交流協会
「外国人技能実習生等のための地域連携日本語教室」
<http://www.sir.or.jp/multiculture/japanese/trainee/>



③ NPOから

（一社）グローバル人財サポート浜松
「企業内日本語教室」
<http://www.globaljinzai.or.jp/>



5

【CASE 2】 当事者による取り組み

① NPO法人日本ポリビア人協会（三重県津市）

「家で学べる!! 日本語通信講座」
<http://bit.ly/2ASWCxK>



② NPO法人フィリピンナガイサ（静岡県浜松市）

「バヤニハン日本語教室」
<http://filipinonagkaisa.org/>



③ 株式会社日本容器（兵庫県丹波市）

日本語教室「たんぽぽ」
<http://bit.ly/31OIS6H>



6